現代日本の貧困研究におけるスティグマ概念の射程

－不名誉な「貧困」から距離をとるということ－

○　東京大学大学院　　氏名　東　悠介（会員番号 009332）

キーワード： 貧困、スティグマ、他者化

１．研 究 目 的

本研究の目的は、日本の貧困研究、とりわけ貧困の判別に関する研究におけるスティグマ概念の射程を検討することである。近年貧困研究をめぐっては、貧困者の市民としての尊厳を守ることの重要性が、「承認」や「居場所」といった語を通じて強調されるようになってきた。これらの問題系と関連した意味内容をもつものとして社会福祉学におけるスティグマ概念をあげることができる。にもかかわらず、現代日本の文脈においてスティグマは生活保護制度との関連でのみ論じられることが多く、貧困問題全体との関係性が十分に考察されてきたとはいいがたい。

２．研究の視点および方法

本研究は、日本社会を生きる貧困者と、彼らに付与されるスティグマとの間の関係性を考察する上で、貧困である／ないとみなされること、すなわち貧困の判別という水準に着目する。具体的には、次のような形で議論が進められる。①まず学説の再整理を通じて、貧困研究においてスティグマ概念によって説明が企図されてきた事象を明らかにする。②次に、貧困判別に関連する研究のレビューを通じて、①で示された知見を現代日本の貧困研究に適用することの意義について検討する。

３．倫理的配慮

先行業績の参照方法や知見の独自性などに関して、日本社会福祉学会研究倫理規定にしたがって十分な配慮を行った上で本研究は進められた。

４．研 究 結 果

① 貧困研究においてスティグマ概念が担わされてきた役割

貧困研究におけるスティグマ概念の位置づけは時代とともに変化しており、その流れは「制度から貧困へ」、「客体から主体へ」という二つにまとめることができる。

戦後の福祉資本主義社会においてスティグマは、形式的には市民権を保障されている被扶助者に対する実質的な治療・制裁の表れとして理解されてきた。しかしその後、身体、依存、貧困などの個人的な属性を原因として、必ずしも社会福祉サービスとの関係をもた

ない人びとにもスティグマが付与されうることが指摘されるようになった。さらにそこでは、スティグマそれ自体が個人の福祉水準に与える負の影響と同程度かそれ以上に、スティグマを付与された貧困者の主体性に焦点を当てた研究がなされるようになっている。そのうち本研究が注目するのは貧困者による「他者化」実践である。貧困者は、その不名誉から逃れるために自身とは異なる「他者」として貧困を描くことによって、そこから距離をとろうとするのである（Chase and Walker 2013）。

② 現代日本の貧困問題にスティグマ概念を適用することの意義

高度経済成長以降日本は「一億総中流社会」と呼ばれ、たとえそれが幻想にすぎなかったのだとしても、だれもが「中流」の豊かさを夢見ることができた。このような時代の経験は、2000 年代に入って貧困問題に注目が集まりながらも、多くの人びとが貧困の広範な存在についてリアリティをもつことができないという、現在の矛盾した状況の一因となっているように思われる。たとえば日本とイギリスは同程度の豊かさを享受しているのにもかかわらず、日本ではイギリスに比べて必要不可欠だと社会的に合意できる生活様式の内容が少ないのだ（Abe and Pantazis 2014）。現在の日本において、貧困とはどのような状態を意味するのかについて合意を得ることは容易ではないのである。

①で論じたスティグマに関する知見は、日本社会においてことさらに重要性をもつ。というのも、上記の社会状況において、貧困のスティグマから逃れるために行われる「他者化」実践は、貧困問題の不可視化へとつながる恐れがあるからだ。本来貧困であるはずの人びとが貧困を「他者」として語るとき、現在の日本ではそれらの語りの正当性を外在的な基準をもって検証することはできない。その結果として彼らの抱える困難を貧困としてみなすことが難しくなってしまうということである。

５．考 察

以上において、生活保護受給の抑制だけでなく、貧困の不可視化を説明する上でもスティグマ概念を用いることの可能性が示された。しかし本研究はあくまで仮説の提示にとどまっており、その検証が課題として残されている。「総中流」以降の現代日本において貧困者に付与されるスティグマとはどのようなものか、貧困問題の不可視化は本当にスティグマを原因として生じているのか、などが具体的に検証されるべき問いとなるだろう。

文 献

Abe, Aya and Pantazis, Cristina (2014) Comparing Public Perceptions of the Necessities of Life across Two Societies: Japan and the United Kingdom, Social Policy and Society, 13(1), 69-88.

Chase, Elaine and Walker, Robert (2013) The Co-Construction of Shame in the Context of Poverty: Beyond a Threat to the Social Bond, Sociology, 47(4), 739-54.